

日本企業のクラウドサービス導入とその経済効果

金榮愨（専修大学経済学部）
権赫旭（日本大学経済学部・RIETI）

2015年4月

要旨

1990年代以降の日本経済の長期低迷の原因の一つとして、情報通信技術（ICT）革命に乗り遅れたことが指摘される。本論文では、近年 ICT の流れの一つとして注目されているクラウド・コンピューティングの導入状況や経済効果を分析している。ICT 投資全般と同様、クラウド・コンピューティングにおいても日本は米国に大きく遅れている。また、2000 年以降、ICT 投資はハードウェアからソフトウェアや ICT サービスにその軸が移ったことも議論される。

クラウド・コンピューティングの経済効果を分析するため、「情報処理実態調査」と「企業活動基本調査」の個票データをマッチングし、付加価値への貢献を分析している。第一歩として ICT 全般の生産への寄与を分析した結果、限界生産が非常に高く、深尾他(2015)でも議論されているように、日本企業における ICT 投資は過少であることが示された。また、クラウド・コンピューティングの生産への貢献を分析した結果、ソフトウェアや ICT サービスの貢献とは別に、生産への大きな貢献が確認され、その係数が非常に大きいことから、クラウド・コンピューティングの導入が企業生産性を大きく上昇させる可能性があることが確認される。また、クラウド・コンピューティングの限界生産は他の ICT 投入よりはるかに大きく、導入及び活用が非常に過少である可能性が示唆される。